

ヨーロッパにおける高等教育のグローバル化

ードイツにおける学生の流動性と労働市場を中心にー

Globalization of Higher Education in Europe:

Mobilities of Students and Labour Market in Germany

玉川大学教育学部教授 坂野 慎二

SAKANO Shinji

(Professor, College of Education, Tamagawa University)

キーワード：高等教育、グローバル化、ドイツ

はじめに

ヨーロッパでは、1999年のボローニャ宣言以降、「ボローニャ・プロセス」が進んでいる。大学における学修をバチェラー課程（3-4年、「BA」と略）とマスター課程（1-2年、「MA」と略）と標準化することによって、ヨーロッパ各国の大学を移動しながら学修することを可能にするシステムづくりが進められている。ボローニャ・プロセスの当初の目標達成期限は2010年であったが、すべての国がその目標を到達できた訳ではない。現在は、3年に1回程度のフォローアップ会議が開催されている。

本稿では、こうしたボローニャ・プロセスがヨーロッパの大学や国際交流にどのような影響を与えたのかについて、ドイツを中心にみてみよう。

1. ヨーロッパ高等教育におけるグローバル化

(1) ヨーロッパ高等教育圏の進展

1999年のボローニャ宣言当時、ヨーロッパ高等教育圏（EHEA）の対象となる国・地域は29であった。2012年時点でヨーロッパ高等教育圏は、47の国・地域で構成されている（European Commission/EACEA/Eurydice (2015)）。ボローニャ宣言では、①学生や教員の流動性を高めること、②2サイクルの学位を比較可能にすること、③ヨーロッパ単位互換制度（ECTS）、④高等教育機関の質保証（認証評価）、⑤ヨーロッパ高等教育圏の促進、等が取り決められた。1999年のボローニャ宣言以降、当初は2年毎にフォローアップ会議が開催されてきた（2001年プラハ（32カ国）、2003年ベルリ

ン（40カ国）、2005年ベルゲン（45カ国）、2007年ロンドン（46カ国））。2001年のプラハ会議では、⑥社会的な次元（教育機会の公正さ等）を取り入れること、⑦生涯学習を取り入れること、が取り決められた。

②の2サイクル型学位制度は、バチェラー、マスターによる学位制度が当初提示されていたが、2003年には博士を加えた3サイクルとすることが取り決められた。更に、学位等と連動して、2005年には各国がヨーロッパ資格枠組みと各国の資格枠組みとを比較可能とするように取り決められた。各国が国家資格枠組みを作成する期限は、2007年には3年後の2010年まで、2009年には2012年まで、としていたが、すべての加盟国で作成されている訳ではない。

10年目にあたる2009年には、ルーヴァン/ルーヴァン・ラ・ヌーヴで会議が開催され、第一サイクルがほぼ終了し、「ボローニャ・プロセス2020」が声明として公表された。2010年にはブダペスト/ウィーン宣言が採択され（47カ国）、第二サイクルへと入る。フォローアップ会議は3年サイクルとなり、ブカレスト（2012年）、イエレヴァン（2015年）と実施され、次回の2018年はフランスで開催予定である。イエレヴァン声明では、①学修及び教授の質及び関係の向上、②卒業生の雇用の拡大、③よりインクルーシブなシステムの構築、④構造改革の実施、等が目標とされている（YEREVAN COMMUNIQUÉ¹⁾）。

こうした枠組みと、ヨーロッパ資格枠組み（European Qualification Frameworks; EQF）による域内労働市場の共通化を推し進めていくことが、EHEAの目的の1つである。

（2）ヨーロッパにおける高等教育の拡大

各国でどの位の若者が高等教育機関に入学しているのか、その推移を確認しておこう。

「表1」から確認できるのは、幾つかの国で、高等教育機関入学率が1995年以降に大きく上昇していることである。OECD諸国平均で、学術的高等教育機関（5A）への入学率は、39%（1995年）から58%（2012年）へ、EU平均でも35%から56%へと上昇している。筆者が主たる研究対象としているドイツやオーストリア、スイスといったドイツ語圏では、ほぼ2倍へと増加している。これに職業的高等教育機関（5B）を加えると、ドイツでは41%から75%へ、オーストリアでは27%から70%へ、スイスでは46%から67%へ、EU全体では46%から70%へ、それぞれ上昇していることがわかる。同一世代の半数以上の者が高等教育機関に進学するように変化した。ヨーロッパにおいて、高等教育がマス段階からユニバーサル段階に移行したことが理解できる。ボローニャ・プロセスは、こうした時期におけるヨーロッパの高等教育の共通化と流動化を目指すものであった。

【表1】OECD 各国の高等教育機関入学率

国名	年	Tertiary-type 5A					Tertiary-type 5B				
		1995	2000	2005	2010	2012	1995	2000	2005	2010	2012
オーストリア		27	34	37	53	53	m	m	9	16	17
ベルギー		m	m	33	33	34	m	m	34	38	39
チェコ		m	25	41	60	60	m	9	8	9	9
デンマーク		40	52	57	65	74	33	28	23	25	28
エストニア		m	m	55	43	43	m	m	33	29	27
フィンランド		39	71	73	68	66	32	a	a	a	a
フランス		m	m	m	m	41	m	m	m	m	m
ドイツ		26	30	36	42	53	15	15	14	21	22
ギリシャ		15	30	43	m	40	5	21	13	m	23
ハンガリー		m	55	68	54	54	m	1	11	16	16
アイスランド		m	66	74	93	80	m	10	7	4	3
アイルランド		m	32	45	56	54	m	26	14	28	20
イタリア		m	39	56	49	47	m	1	n	n	n
日本		31	40	44	51	52	33	32	31	27	28
韓国		41	45	51	71	69	27	51	48	36	36
ルクセンブルク		m	m	m	m	28	m	m	m	m	8
オランダ		44	53	59	65	65	a	a	a	n	n
ニュージーランド		83	95	76	79	78	44	52	50	47	40
ノルウェー		59	67	73	76	77	5	5	n	n	n
ポーランド		36	65	76	84	79	1	1	1	1	1
ポルトガル		m	m	m	89	64	m	m	m	n	n
スロバキア		28	37	59	65	61	1	3	m	1	1
スロベニア		m	m	40	77	76	m	m	49	19	17
スペイン		m	47	43	52	52	3	15	22	26	32
スウェーデン		57	67	76	76	60	m	7	7	12	10
スイス		17	29	37	44	44	29	14	16	23	23
トルコ		18	21	27	40	41	9	9	19	28	30
イギリス		m	47	51	63	67	m	29	28	26	20
アメリカ		57	58	64	74	71	x(1)	x(2)	x(7)	x(12)	x(14)
OECD 平均		39	48	54	62	58	17	16	18	19	18
EU21 平均		35	46	53	61	56	11	11	16	15	14

(出典： OECD (2014) Table C3.2a. p.340)

次に EHEA における実際の学生数を見ておこう。ユネスコの ISCED97 (国際標準教育分類) による「レベル 5A (学術的大学毕业)」、「レベル 5B (職業的大学毕业)」及び「レベル 6 (博士修了)」の学生数は、およそ 3,720 万人である (2011/12 年度) (European Commission/EACEA/Eurydice (2015), 29)。このうち、「レベル 5A」が 82%、「レベル 5B」が 15.6%で、「レベル 6」は 2.7%に過ぎない。国別では、リヒテンシュタイン公国の 960 人からおよそ 800 万人のロシアまで、大きな違いがある。ロシアは EHEA の 21.5%を占めている。「表 2」では、学生数の多い主要国のデータである。

【表2】ヨーロッパ高等教育圏主要国の高等教育概要

国名	トルコ	ドイツ	イギリス	フランス	ポーランド	スペイン	イタリア	オランダ	スウェーデン
学生数(千人)	4,254	2,939	2,496	2,296	2,007	1,966	1,926	793	453
世代比 (2012年度、 18-34歳比,%)	18.7	16.4	13.9	16.7	18.8	16.6	14.5	19.9	16.9
公的高等教育費 GDP比(%)	1.54	1.40	1.19	1.29	1.13	1.13	0.83	1.72	1.98
フルタイム学生 一人当たりの年 間支出(€)	6,712	12,579	10,832	11,565	6,221	9,909	7,515	13,309	15,660
中退率	-	-	14.3	9.0	5.6	22.6	17.1	9.1	7.1
公立大学学士段 階での授業料支 払率			100.0		42.8		92.4	6.4	0.0
授業料GDP比 (学士)		2.9	35.8	0.6			1.9	5.1	
授業料GDP比 (修士)		2.9	-	0.8			1.9	5.1	
1月当たりの授 業料(学士、€)					5		12	15	0
学生への公的補 助の割合(%)	14.1	21.9	43.6	8.0	12.7	9.4	22.2	28.8	24.7
高等教育を受け た者の割合 (2013年)									
25-34歳	21.5	30.0	43.8	43.9	41.8	41.5	22.7	42.8	44.9
35-44歳	14.5	29.8	44.0	39.0	29.1	41.7	18.4	36.6	43.1
45-64歳	8.7	27.3	33.4	23.0	15.1	25.5	12.3	29.1	30.0
卒業率	88	75.0	68.0		62.0	78.0		72.0	48.0
20-34歳の学歴 別失業率 (2013年)									
大学卒業生	11.2	2.8	5.2	7.6	7.7	20.5	12.0	4.0	5.6
後期中等教育 終了者	7.4	4.5	8.2	11.9	12.1	24.1	13.0	6.7	9.4
前期中等教育 終了者	6.0	11.7	15.4	20.4	17.7	36.9	17.8	9.1	19.1
大学卒業年次別 失業率(2013 年,3年以下)	17.3	3.6	9.2	10.2	11.4	28.4	15.9	5.1	6.9
EHEA 以外からの 学生割合	0.32	2.57	10.91	8.35	0.39	1.84	1.91	1.58	3.20
EHEA 以外からの 学生数	14,133	75,631	2,722,209	191,718	7,819	36,261	36,748	12,555	14,514
外国で学修する 学生割合(%)	-	0.58	0.65	0.95	0.12	0.30	0.30	0.44	1.17
EHEA 以外で学位 を取得した者	13,641	13,734	13,598	19,725	2,388	5,743	5,635	2,861	5,195
EHEA 内の留学生 /学生(%)	0.3	2.8	6.0	2.7	0.8	1.0	2.1	5.4	1.9
EHEA からの学生 受入数	13,435	81,635	150,133	62,328	15,156	19,385	40,231	42,721	8,649
EHEA 内への留學 生数	30,407	102,798	11,683	41,852	23,804	23,630	39,993	11,673	12,416
EHEA での受入学 生/流出学生	0.42	0.79	12.82	1.47	0.63	0.77	0.70	3.65	0.69

(出典: European Commission/EACEA/Eurydice (2015) を基に筆者作成)

ヨーロッパ各国の高等教育機関は、一部の例外として、国公立大学が中心である。国立大学には多額の税金が投入される。私立の多い国においても、一般に多額の補助金が拠出されている。従来は国の税金でその国の人材育成を行うことが暗黙裏の了解事項であった。しかし、大学等で学修して卒業した者は、その国の労働市場にのみ参入する訳ではない。市場の変化に伴い、企業自体がグローバル化・多国籍化している。日本でも近年みられるように、企業の多国籍化はそれに適した人材を求める。このため、学修期間前後に諸外国での経験を有する者が企業の採用基準として重視されるようになってきている。大企業では会議の使用言語が英語となり、英語はビジネス界における当然の前提として扱われるようになってきている。このため、イギリスやアメリカを中心とする英語圏の国は、多くの留学生が集まってきている。EHEAでの留学生の受け入れと送り出しにおいて、受入数が圧倒的に多いのはイギリスである。

(3) ヨーロッパにおける留学生の動向

ヨーロッパにおける学生交流計画で、最も大規模なのがエラスムス計画である。エラスムス計画は、第1期（1985～1995年、12カ国、学生交流年間3,000人と教官交流年間1,000人）、第2期（1996～2006年、ソクラテス計画（1996～2000年）及びソクラテスⅡ（2001～2006年）の中）、第3期（2007～2013年、エラスムス・ムンドゥス計画）、第4期（2014～2020年、エラスムス+）といった形で継続・発展してきている²。

【表3】エラスムス計画による留学生等の推移

年	人数	伸べ人数	年	人数	伸べ人数
1987	3,244	3,244	2000	111,092	850,948
1988	9,914	13,158	2001	115,432	966,380
1989	19,456	32,614	2002	123,957	1,090,337
1990	27,906	60,520	2003	135,586	1,225,923
1991	36,314	96,834	2004	144,037	1,369,960
1992	51,471	148,305	2005	154,421	1,524,381
1993	62,362	210,667	2006	159,324	1,683,705
1994	73,407	284,074	2007	182,697	1,866,402
1995	84,642	368,716	2008	198,523	2,064,925
1996	79,874	448,590	2009	213,266	2,278,191
1997	85,999	534,589	2010	231,408	2,509,599
1998	97,601	632,190	2011	252,827	2,762,426
1999	107,666	739,856	2012	267,547	3,029,973

(出典：EU (2015))

これまでのエラスムス計画における実際の人数を見てみよう（「表 3」参照）。なお、このデータでは学生以外の者も含まれている。1987年に3,000人余りで始まったエラスムス計画は、1989年には年間で2万人弱に、1999年には年間で10万人規模へ、そして2009年には20万人規模へと発展している。伸び人数では、1992年に10万人に、2002年には100万人に、2008年には200万人に、2012年には300万人に達している。EUの拡大によって、その規模が急速に拡大していることが理解できよう。エラスムス計画全体での交換学生の母国別内訳（「表 4」参照）では、ドイツ（444,963人）、フランス（447,536人）、スペイン（434,374人）、イタリア（319,905人）等となっている（European Commission(2015)）。

【表 4】各国別エラスムス計画派遣留学生数

国名	1990	1995	2000	2005	2010	2012	累 計	割合 (%)
ベルギー	1,154	3,978	4,427	4,971	6,824	7,741	106,627	3.52
ブルガリア			398	882	1,837	1,952	14,987	0.49
チェコ			2,001	4,725	6,433	7,299	65,578	2.16
デンマーク	729	1,930	1,750	1,682	2,768	3,646	44,285	1.46
ドイツ	4,933	13,638	15,872	23,848	30,274	34,891	444,963	14.68
エストニア			255	511	1,028	1,153	8,535	0.28
ギリシャ	566	1,897	1,868	2,714	3,437	4,249	51,402	1.7
スペイン	3,422	10,547	17,158	22,891	36,183	39,249	434,374	14.33
フランス	5,524	13,336	17,161	22,501	31,747	35,311	447,536	14.77
アイルランド	644	1,618	1,648	1,567	2,511	2,762	39,624	1.31
イタリア	3,355	8,969	13,253	16,389	22,031	25,224	319,905	10.56
キプロス				133	264	350	2,055	0.07
ラトビア			182	681	1,959	2,149	13,879	0.46
リトアニア			625	1,910	3,417	3,529	28,618	0.94
ルクセンブルク		68	126	146	441	406	3,935	0.13
ハンガリー			2,001	2,658	4,164	4,387	42,971	1.42
マルタ			92	149		208	1,630	0.05
オランダ	1,969	5,180	4,162	4,491	8,590	10,061	120,786	3.99
オーストリア		2,301	3,024	3,971	5,216	5,714	72,513	2.39
ポーランド			3,691	9,974	14,234	16,219	169,576	4.61
ポルトガル	543	1,609	2,569	4,312	5,964	7,041	75,744	2.5
ルーマニア			1,899	3,261	4,604	5,011	47,401	1.56
スロベニア			227	879	1,480	1,821	13,226	0.44
スロバキア			505	1,165	2,458	3,008	20,366	0.67
フィンランド		2,530	3,286	3,851	5,081	5,496	72,690	2.4
スウェーデン		2,912	2,726	2,531	3,160	3,728	57,818	1.91
イギリス	5,047	11,735	9,020	7,131	12,833	14,572	231,122	7.63
アイスランド		103	135	194	263	255	3,457	0.11
リヒテンシュタイン		3	18	30	38	26	369	0.01
ノルウェー		1,212	1,007	1,412	1,529	1,708	24,781	0.82
トルコ				2,852	10,095	14,399	68,423	2.26
クロアチア					545	1,124	2,786	0.09
スイス		1,048				2,860	8,042	0.27
フィンツェ欧州大学		28	8	10			192	0.01
合 計	27,906	84,642	111,092	154,421	231,408	267,547	3,030,196	100

（出典：European Commission (2015) p.200-201）

現在進行しているエラスムス計画は、2014年から「エラスムス+」として、2020年までの7年間で計画されている。その予算総額は147億ユーロが予定されている。対象とされているのは、400万人で、大学生が200万人と中心であるが、職業教育・訓練生が65万人、高校以下の生徒、50万人、等となっている。この他に、大学教授や教員、訓練指導員などのスタッフが80万人予定されている³。

2. ドイツにおける高等教育の発展と国際交流

(1) ドイツにおける高等教育の発展

ドイツの高等教育機関は、総合大学（教育大学、芸術大学等含む）と専門大学とに区分されている。博士の学位授与権は総合大学のみを与えられている。大学間の優劣関係はなく、原則として、どこの大学・学部にも進学することが可能である。ボローニャ・プロセス以前は、総合大学は5年程度の標準学修期間で、マギステルやディプロマ、国家試験等の学位で卒業していた。一方、専門大学は3年半程度の標準学修期間で、ディプロマ（専門大学）の学位を授与していた。ボローニャ・プロセスによって、ドイツの大学は、総合大学も専門大学もBAとMAの学位を授与するように変化した。高等教育機関の位置づけとしての相違はそのまま残るが、卒業生に対する区分は形式上はなくなった。また、従来の全体での学修課程から、BA・MAによる2サイクル型へと学修課程を変更した。教員養成等の一部の課程を除き、実際に80%以上の課程が2サイクル型へと転換した。

近年の特徴として、大学進学率の上昇による学生数の増加が大きな特徴となっている。ドイツにおける大学入学資格を有する者の割合は、1995年の36.4%から2012年の58.4%へと上昇している。このうち、一般大学入学資格（アビトゥア）を取得している者は7割程度で、専門大学入学資格を有する者は3割弱である（BMBF(2014) Tab. F2-1A）。大学入学資格を持つ者で実際に大学に進学する者の割合は、1980年は87.1%であったが、1990年には76.8%、2000年には70.6%、2005年には69.1%まで低下した。2008年は70.0%で、その後上昇傾向になるものと予測されている（BMBF(2014) Tab. F2-1B）。ドイツでは、ギムナジウム等を卒業して、そのまますぐに大学等に入学する者もいるが、かつては兵役や代替役務、あるいは自主的な社会奉仕に着く者、外国で経験を積む者等、多様な進路をとっていた。

ボローニャ・プロセス以降、ドイツの学生の学修期間は短縮されている（BMBF(2014) p. 131）。従来のディプロマの学位を取得するまでに、学生は12学期（6年）以上を必要としていたが、MA取得までの通算学修期間の平均はおよそ11学期（5.5年）である。しかし、学修が効果的に行われているのか、これまでになかったBAの労働市場が今後拡大するのかを評価するには、時期尚早である。また、総合大学と専門大学の学位の違いがなくなったことによる労働市場の変化も、まだ十分には分析されていない。

【表5】ドイツの大学等の推移

年度	2001/2002	2002/2003	2003/2004	2004/2005	2005/2006	2006/2007	2007/2008
総合大学 学生合計(人)	1,382,261	1,422,688	1,467,890	1,403,491	1,418,377	1,408,544	1,369,075
専門大学 学生合計(人)	486,405	516,545	551,941	560,107	567,729	570,901	572,688
大学全体 学生合計(人)	1,868,666	1,939,233	2,019,831	1,963,598	1,986,106	1,979,445	1,941,763
総合大学 外国人学生合計(人)	164,177	179,824	193,161	192,012	191,819	187,978	176,043
専門大学 外国人学生合計(人)	41,964	47,202	52,975	54,322	56,538	58,391	57,563
大学全体 外国人学生合計(人)	206,141	227,026	246,136	246,334	248,357	246,369	233,606
外国人学生/学生 (%)	11	11.7	12.2	12.5	12.5	12.4	12
年度	2008/2009	2009/2010	2010/2011	2011/2012	2012/2013	2013/2014	
総合大学 学生合計(人)	1,397,492	1,448,616	1,503,839	1,605,401	1,673,675	1,736,984	
専門大学 学生合計(人)	628,250	672,574	713,765	775,573	825,734	879,897	
大学全体 学生合計(人)	2,025,742	2,121,190	2,217,604	2,380,974	2,499,409	2,616,881	
総合大学 外国人学生合計(人)	176,514	179,353	184,205	192,918	204,221	216,907	
専門大学 外国人学生合計(人)	62,629	65,423	67,827	72,374	77,980	84,443	
大学全体 外国人学生合計(人)	239,143	244,776	252,032	265,292	282,201	301,350	
外国人学生/学生 (%)	11.8	11.5	11.4	11.1	11.3	11.5	

(出典: Statistisches Bundesamt (2014))

(2) ドイツの高等教育機関における国際交流

2000年度以降、ドイツにおける留学生は、人数では2006年度から2008年度までは減少しているが、長期的には増加傾向にあることがわかる。学生全体における割合は、11%台から12%台で推移している。これは留学生数の増加もさることながら、ドイツ人学生数の増加が続いているためである。

留学生の内訳をみてみよう。大学全体での留学生は、2013/14年度で301,350人である。ただし、ドイツ国内で大学入学資格を取得した者が82,502人含まれている(トルコ26,303人、イタリア4,706人、クロアチア3,818人、ロシア3,399人、ポーランド2,925人、ウクライナ2,801人など)。留学生の地域別内訳は、EU諸国からの学生91,912人(30.5%)、EU以外のヨーロッパ諸国からの学生72,748人(24.1%)、アフリカ諸国からの学生23,290人(7.7%)、南北アメリカ諸国からの学生19,538人(6.5%)、

アジア諸国からの学生 92,548 人 (30.7%)、オセアニア諸国からの学生 715 人 (0.2%)、無国籍・不明等 599 人 (0.2%) となっている。EU 及び EU 以外のヨーロッパ諸国の学生を合わせると 50% を超えており、ヨーロッパからの留学生が数的には多いことがわかる (Statistisches Bundeamt (2014))。

国別にみても、EU の中で多いのは、オーストリア (11,235 人)、イタリア (10,916 人)、ポーランド (9,142 人)、フランス (7,342 人)、ブルガリア (7,223 人)、ギリシャ (7,072 人)、スペイン (7,058 人) 等となっている。ギリシャ、スペイン等は経済的に厳しい状態にあることがその要因として考えられる。

EU 以外のヨーロッパ諸国では、トルコ (33,004 人)、ロシア (14,525 人)、ウクライナ (9,212 人) が多い。トルコはドイツがトルコから外国人労働者として労働力を 1960 年代を中心に移入し、その後彼らが家族をドイツに呼び寄せ、ドイツに定住したという経緯がある。また、旧ソビエト諸国には、第二次世界大戦前にドイツ系の移民が多かったことが理由として考えられる。

それ以外の地域では、中国 (30,511 人) がずば抜けて多く、インド (9,619 人)、イラン (6,607 人)、カメルーン (6,408 人)、ベトナム (5,597 人)、モロッコ (5,165 人)、韓国 (5,518 人)、アメリカ (4,855 人)、等で、日本は 2,317 人である (Statistisches Bundeamt (2014), TAB10)。

一方、ドイツ人学生がどの程度外国の大学で学修しているのか。2002 年度から 2012 年度の推移をみると、5.8 万人 (2002 年) から 13.6 万人 (2012 年) へと恒常的に増加傾向にあり、10 年で 2 倍以上になっている (Statistisches Bundeamt (2014b))。ドイツ国内の学生に対する他国に留学するドイツ人学生の割合は、3.4% (2002 年) から 6.6% (2010 年) へと増加したが、その後緩やかな低下傾向である (2012 年は 6.2%)。

このように、ドイツの大学生の国際化は進展しているように見える。しかしこのデータには一定の留意が必要である。というのも、国別の内訳でみると、ドイツ語圏のオーストリア、スイス及び隣国のオランダへの留学生数が急増している。オーストリアへの留学生数は、2002 年 5,486 人から 2012 年には 32,192 人へと 5 倍以上に増加している。スイスへの留学生数は、6,131 人 (2002 年) から 14,352 人 (2012 年) へと増加している。オランダへの留学生数は、2002 年の 5,239 人から 25,019 人 (2012 年) へと増加している。この 3 カ国で 7 万人以上とドイツ人留学生の半数以上に達している。この人数は留学生増加分にほぼ匹敵する数である。一方でイギリスやアメリカへの留学生数は減少傾向にある。学生数の増加を考慮すると、ドイツの学生も、日本と同じように「内向き志向」にあるといえるのかもしれない。

まとめ

以上のように、ヨーロッパレベルでは、高等教育機関における量的拡大の時期とボローニャ・プロセスの時期とは重なっていることを示した。ボローニャ・プロセスは目標の幾つかが 2010 年までには

目標に到達できず、現在は2020年までの目標達成を目指している。EQFによる労働市場の共通尺度は、失業問題に直面しているスペインやギリシャといった国々の若者に重要な施策である。また、エラスムス計画を中心としたEUの国際交流プログラムは、留学生の量的拡大を推し進めている。しかし、ドイツの事例が示すように、必ずしもEUの統合・融合を促進しているとはいえない。ヨーロッパ資格枠組み(EQF)を基盤としながら域内労働市場の統一を目指す方向性は維持されるであろう。しかし、その内実を伴う形になるまでは、今しばらく時間を要するであろう。

日本では第2期教育振興基本計画(2013年)でグローバル人材の育成が掲げられ、2020年までに海外への留学生倍増(6万人から12万人)、日本への留学生30万人計画の実現が目指されている(基本施策16)。単に数値目標を達成するというだけではなく、実質において目指す成果を適切に測る指標によって検証していくことが重要であろう。

【主要参考文献等】

木戸裕(2012)『ドイツ統一・EU統合とグローバリズム』東信堂

BMBF(2014) : Bildungsbericht 2014.

European Commission/EACEA/Eurydice(2015) : The European Higher Education Area in 2015: Implementation Report Bologna Process. Education, Audiovisual and Culture Executive Agency, 2015.

European Commission(2015) : On the way to Erasmus+ A Statistical Overview of the Erasmus Programme in 2012-13.

EU(2015) : The EU and the Bologna Process - working together for change.

OECD(2014) : Education at a Glance 2014.

Statistisches Bundesamt(2014) Fachserie 11 Reihe 4.1 Bildung und Kultur. Studierende an Hochschulen.

Statistisches Bundesamt(2014b) Deutsche Studierende im Ausland. Statistischer Überblick 2002 - 2012.

¹ <http://www.ehea.info/article-details.aspx?ArticleId=43>

² 文部科学省資料 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/007/gijiroku/030101/2-7.htm、http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/block2/1191501_1952.html 及び http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/025/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2010/03/05/1291048_2.pdf 参照。

³ http://ec.europa.eu/programmes/erasmus-plus/discover/key-figures/index_en.htm 及び <http://www.bmbf.de/de/23124.php> 参照。